

巻 頭 言

日本ジェネリック医薬品学会 第8回学術大会にあたって

日本各地で最高気温の更新が風物詩のような昨今ですが、名古屋の夏の暑さは昔から有名です。この暑さは、名古屋の西に位置する鈴鹿山系や紀伊半島がもたらすフェーン現象によるもので、夏型の気圧配置になると、高気圧のへりに沿って湿った西風が鈴鹿山系を登り、乾いた熱い空気が濃尾平野に下りてくることによるものだそうです。

この度、第8回の大会会長に指名され、本年7月12日(土)～13日(日)の2日間、名古屋駅直近の愛知県産業労働センター(ウインクあいち)に於いて、日本ジェネリック医薬品学会 第8回学術大会(テーマ:ジェネリック医薬品に出来ること)を開催する運びになりました。大会会長を務めさせていただくにあたり、重責を感じながら学会と呼ばれるのにふさわしい学術集会を目指して準備を進めているところです。

後発医薬品の使用促進については、本学会も関与した「後発医薬品使用促進のためのロードマップ」が平成25年に策定され、平成30年までに後発医薬品置き換え率(新指標)を60%にまで高めることとされ、その達成率をモニタリングし、その結果や諸外国の動向を踏まえ適宜見直すとされました。

本年4月の診療・調剤報酬改定では、このロードマップを反映させる形で、DPC病院の評価に後発医薬品使用比率の係数を含める、また保険薬局の後発医薬品体制加算の算定要件を引き上げるなどの60%達成に向けた改定がなされたところです。

そこで、本大会では、このロードマップを軸に、過去を見つめ直し、現状の課題を今一度検討し、将来を展望する機会にしていきたいと考えています。参加者の皆様へより多くの情報を提供すべく、基調講演、シンポジウム、一般口演、ポスター発表、スポンサードシンポジウム、ランチョンセミナー、教育講演等を企画しています。

1997年、スイス西部レマン湖北部にあるフリブールという人口2,000人程の小さな町で、「薬剤師と医師によるクオリティサークル(PPQC)」が生まれました。患者の薬物治療の質を落とすことなく医療保険のコストを減らすと同時に、薬剤師と医師の関係を改善し、同時に生涯教育の質を高めるために、薬剤師有志が医師に働きかけ設立したものです。国際薬剤師・薬学連合(FIP)の会長 Michel Buchmann 博士は、このクオリティサークル発案の中心人物であり、ローザンヌ大学病院薬剤師や大学教授、地域の薬剤師や医師、地方行政、保険者を巻き込んでこの活動を展開してこられました。彼の素敵な薬局は、小高い丘にあるフリブールの街中にあり、時間があれば、一人の開局薬剤師として薬局に立ち、地域住民からも慕われている様子を拝見したことがあります。

本年5月に、日本薬剤学会他で講演活動をされたばかりですが、短期間のうちに再来日していただき、再び彼の講演を提供できる機会が得られたことを大変うれしく思います。

もとより、後発医薬品の使用促進は、そのこと自体が目的ではなく、医療費の適正化のための一つ的手段です。日本ジェネリック医薬品学会は、医療費の効率化を図りながら、医療の質の低下を招くことなく、必要な医療等を確保するためには、ジェネリック医薬品使用促進が最も効果的な方法であり、それを強力に推進する必要があるとの認識をもって活動しています。

この認識がさらに多くの方々のご理解を得て、多くの方にご参加いただき、活発な討論を通じて熱風が吹き出していくような学術大会が、暑い名古屋で開催できますよう、ご関係各位に心中よりお願い申し上げます。

2014年6月

日本ジェネリック医薬品学会理事
岩 月 進